



十評發句集

北越浦佐多聞天奉納発句四千  
百餘卷の内抜句一評より二十五千  
宛撰者共坐席前ほむる懐席  
至末の選述もものひ十評をふ  
巻頭中巻軸の秘蔵ありしに書き  
二十四巻ありし甲しる位年のみし

但通り点々部ハ六部より九評まで  
懐身の帖紙より五部まで  
通り点々の部より九部まで

願主北越塩澤

楓館茂子

享和元年酉年仲秋

補助

秋月菴牧之

一

十評叢句集

東都松露庵烏明撰

巻頭

面白れ道やひくちくち知極 黒川 三峯

柳泳多き家へ居まひる 上野 龍岡

清くくと山を歩けり 目末田 那 里竹

よりのまゝ母れ力や小招碇 塩沢 篝木

今も昔も 大崎 友了

や、あつた 武州忍 年路

新々ふぬあまの川 流るる玉那 塩沢 牧之

吹く風も春ていなる柳 うれ 長岡 里明

茶巾干はけの目や枇杷の志 六町 慮呂

△ 寺門くさふあはれい香の降おは 塩沢 青宇

あはれもはるも年いなる 左 北川

あはれへおはれぬあはれ 下日市 尚水

あはれ 長岡 曉雪

あはれ 奥州會津 巨石

あはれ 武州蕨 和風

二

あけ竿ふ秋の川さるや麻相感 同忍 流之

火燈りの徒まうつふも世あつふ 龍岡

きりくも茶もあ 長岡 峨山

掃くていりあつふ 左 松竹

流しやいんあ 目来田 公羽儿

あはれ 見附 其流

犬のまは親あ 松竹

后乃月 牧之

流の川 竹文 如竹

月々々々秋々二のハ五々々々々 官町 昌宇

浪速八千坊選

サキヤ何のりなれた船のうら 塩沢 青宇

志のちやきく様ゆ泣まつく 信如七郎 鳥凌

も教てころのちけり山々々々 馬場 芦元

まの園乃瘦まそくくり二月 六百町 松居

桔果て人々風ある唐野うふ 塩沢 牧水

ほくきに屋々の種れねあや 武崎一葉 仙風

三

く後まの夕風をそらく様うぬ 官村 洞曉

人々も思て射魚の表なり 柏崎 呉洋

ふの山々の中あきあき 竹又 野草

源さ乃風々日の入田つら 芦元

まへへ通あきあき 柳生

ほくまの風々 素風

散るもの 野麥

はひ 里竹

枕 旭宇

郭らうつを啼くそらうらまの秋 長岡 松路

日高りや秋雪をうけて寒の入 仙田 二川

雨をまきくさの秋花 六日町 慮呂

日のくさくさお水 上州伊勢町 一岷

花とら中 松居

又秋をのふうつ 里竹

晩鐘をきき 松木 雨暮

うら 小半谷 仲有

為 武蔵ノ巣 篁雨

に

俳 青字

洛東芭蕉堂蒼虬評

多 小半谷 玉芝

枯 水沢 拍青

岩 拍崎 千保

名 武蔵谷 月樵

白 塩沢 牧之

中 拍青

百古多峰也火を焚きさして多保 六日町 可周

さし〜さし知ふ秋のさき可周 塩沢 青宇

ねんの後さしや 岡子 柏崎 其貞

こ〜こ〜さしつらぬ 嶺のたし月 六日町 文里

郊〜郊〜さし降りと日枝の言 下条 師乙

白梅やか〜さし海岸く〜り 竹ノ又 古村

傘のさし〜さし〜す 下二日町 謝白

あさきのやさの中より木の葉散 青宇

ち〜ち〜の眉もよ〜り〜月お出 六日町 尚古

まの雪 都の雪も 似〜り〜り 赤伊勢町 丹霞

清重あ〜さし〜入〜さ〜り〜 全 一峨

水さし〜さし〜おや子規 塩沢 牧水

おのさし〜さし〜井のさし〜さし〜 赤伊勢町 琴霞

よ〜た〜さし〜柳〜枝〜り〜 武徳谷 壽六

雪〜さし〜さし〜入〜さし〜さし〜 六日町 慮呂

稲妻ふ〜さし〜さし〜さし〜 見附 其流

あ〜あ〜さし〜母の力や 少お徳 塩沢 算本

あ〜あ〜さし〜馬〜さし〜さし〜 六日町 其及

くさきやもくも踏る 杉の山無 桃溪

湖南義仲寺重厚子選

深きや白きけつる 露の山 塩沢 芦笙

牛のまぢあきもえり 山糶 山子谷 仲有

食時の膳りち歩り暑うれ 言町 松居

野啼や雪も晒る宮けり 仙田 二川

秋のちりめくもい降みり 塩沢 青宇

寂しきもたはく 全 やまむも 可榮

まじりお申うきけり 言町 人の息 松居

五鬼色のふき海 園 野牛

り秋や旅もま 塩沢 海の音 茂兮

かけ言れ人のま 長岡 秋の音 柵夕

ま 山子谷 朝雨

とのま 塩沢 月 北川

雨漏や柔白のう 竹又 乃きりく 中條 柵雨

思 目奉田 まき 里竹 柵声

柵明 目奉田 まきの骨 里竹 もく 里竹 う 里竹 申



冬月や形も何なく火のめり 中條 匏舟

り秋や田を信くも此十文字 長岡 太傳

禪字も佛をうりの字さうふ 柏崎 其負

者なり叫まかくしうん 十ヶ谷 旭字

くあもく新くしう 見附 文俱

葉のむやち和めくりの昔道 園 野麥

秋く川や見も近ゆらあ 音 朝雨

半時の日やたうん 仙田 二川

と朝のを川 柏崎 芦雪

冬枯く石を舞乃山 六ヶ所 尚古

東都春秋庵其堂評

梅くやあ 少天 敬之

う 目末田 里竹

鼓ふ花や石 塩沢 牧之

ん 去邊谷 里竹

う 塩沢 月樵

聖雲の 志好

入海や麦の圃よ啼しめさる 六所 昌字

吹ふる中よ入りや花をくま 上州沼田 意列

岩角小瀬の泡や一巻の風 柏崎 千保

花茨鼻月のあも白ひく紫 信中七郎 鳥凌

雪や少風のえゆる巾の中 塩沢 北川

み枝の新踏ふ近き世山は 上野 牧之

灯より花はうつらうつら 塩沢 龍岡

葦の穂乃散るや夕れ海の音 六所 牧水

あう跡を虫の思ふうよ 六所 松居

残の音はかきき 佐梨 梅甫

降るの花よりうつらうつら 塩沢 可榮

あ庵の門をきかぬのうきり 小岩 玉芝

白露乃こもる 長岡 可榮

花雪はかきき 六所 吐月

河津のよの上をりのさけ柳のれ 上列伊勢町 文里

花のよのよのよ 竹又 白之

馬の息をきくの如き 柏崎 古村

夏は月流るともれ 斗石 斗石

まはあつて 巻の梅おこるまきり 上野

柗雪

讚州 邦子坊博和評

うりりあひ 室よまきりや 早の志 小出嶋 猪龙

さくはあ〜〜 小別る日教う事 塩沢 志好

あち干に 程のり 糸や 柗把の志 言町 慮呂

岸のさ〜〜 ち〜〜 や〜〜 の岸 園 野牛

唐〜〜 柗のつらま〜〜 砂の白心 堀角 准龍

むのおや 糸白の上まきり〜〜 竹ノ又 柗雨

初む やりまよ 後柗を 柗〜〜 塩沢 牧之

駕の柗 昇のい〜〜 借〜〜 扇う糸 長岡 曉雪

嘆えりり 妻〜〜 のあ〜〜 柗〜〜 全 里明

二女 夫乃 柗も 柗ふや 生乃 魂 見附 梨曉

門口に 柗〜〜 のま〜〜 り 柗の雪 竹ノ又 柗水

膳も え〜〜 ち〜〜 のあ〜〜 涼〜〜 の柗 言町 昌字

結 妻〜〜 一人を ち〜〜 の玉糸 長岡 喜三

月〜〜 の柗も 二〜〜 のま〜〜 り 昌字 昌字

節〜〜 の柗も 柗の柗〜〜 牛 婦人 山谷 柗里

お中又帯ノ仕直きやるの月 見附 梅天

玉棚や秋乃表もけり 佐梨 牧之

こけ入て連ふいぬの清水 見附 雪山

とくもふもく 見附 霞柙

とくもふもく 志道 志道

秋あてく漏り清やきり 徐涼 徐涼

整へ枯るもあき日とあ 梅宇 梅宇

はるるもあき 楚練 楚練

浪のく 如竹 如竹

+

六月の雪や女に端ぬ 小千谷 玉芝

東都千鳥庵杜春撰

春柳のまふ縷 東都 如水

驚飛く 片貝 孤峯

ひる魚のま 六百町 昌宇

ま 伊勢平 嗽之

町 去別志 巽山

時 六百町 椿臺

坂の口もふんぞり待みー恨くふ 長岡 文正

袖まよふ舞子の涙は 里川 藤宗

麻かゝの宿戸も朽ちり 塩沢 秋の雨 志好

炭かまれば峰も 武州羽生 少き山 宗茂

忘しーい 圃かゝ 前八崎 如くり 秋の月 如水

舟呼も 磐山 何れも 柳生 素亥

ふらふら 古所 舟も 尚古 怨みのあーい 凡中

稲妻の雷も 出中崎 雲も 里仙 あれぬ 月おは

老若の角も 志好 巾も 圖大 あり 自逕 水田

雪のけの 敬之 あらう 里竹 とき 太傳 花山

牛曳て 慮呂 来ると 松居 川 芦笙 流平 全 一 塩沢 多 大 何れ

水散て 敬之 白浪も 自逕 水田 水沢 水田

梅の香 敬之 や 里竹 雨の 太傳 川 慮呂 月 松居 は 全 宿 塩沢 宿り

歸る 敬之 嘆 里竹 け 太傳 霧 慮呂 一 松居 たり 全 和 塩沢 う 大 霧

毎 敬之 氷 里竹 の 太傳 言 慮呂 や 松居 り 全 霧 塩沢 ふ 大 け 大 言

谷 敬之 谷 里竹 乃 太傳 め 慮呂 と 松居 踏 全 ち 塩沢 ら 大 宿 大 葉 大 吹

人 敬之 臥 里竹 て 太傳 花 慮呂 影 松居 を 全 する 塩沢 小 大 舟 大 の 大 心

影 敬之 涼 里竹 や 太傳 星 慮呂 吹 松居 拂 全 め 塩沢 下 大 津 大 風 大

馬の心も八の一なり長さ小 太傳

神都梅月庵坡仄撰

まの心海もまの心もまの心 文里

り梅や蔓よまの心もまの心 牧之

清てもれまの心もまの心 志好

まの心もまの心もまの心 太傳

まの心もまの心もまの心 野麥

まの心もまの心もまの心 柳只

新島の異名や波流の根乃言 一知

風乃吹か 録於腮の那 許友

まの心のかげしとて 野牛

まの心かうけふとて 古村

まの心のふや冷く 野麥

たぬく乃迄也の西りや石蕊の花 朝雨

春月やあふ臨ふ人 亀峰

月今宵秋の海をま 茂守

五月もや梅の心もま 北季

麻屋の門をわたり秋の風 志好

舞臺の人も舞臺をまわす秋の風 長岡 太音

はつかりと石のききあや秋の風 島田 似聲

沸くもあつたもあつた秋の風 目赤田 里竹

秋の風をききあや秋の風 竹又 野草

叶もつとあつたもあつた秋の風 信州七瀬 寄芳

あつたもあつたもあつた秋の風 吉野 文里

あつたもあつたもあつた秋の風 武志 翠山

秋の風をききあや秋の風 文里

はつかりとあつたもあつた秋の風 小千谷 里鶴

浪華不二庵桃居選

海京や蒼々さうへい雪の風 塩沢 芦竹生

母親乃舞息うらみききあや秋の風 長岡 喜三

琴も手はなすもあつた秋の風 及田 松砂

あつたもあつたもあつた秋の風 武州志 霞雨

あつたもあつたもあつた秋の風 長岡 白童

あつたもあつたもあつた秋の風 全 喜三

醫者待てり葉の根分六所 宣風

故の口もんせまら身の根う長岡 文正

草物乃鷗のうきりや木の月上羽田 書郎

大京や日此節赤た朝露六町 文里

そのりれたしるる糸牡丹哉堀 素嵐

子規浦梅の枝風雨を持上羽田 吟水

お木枝や多きまらぬ酒中條 飽舟

明月や水まきりふ人武島羽生 花英

世と推してんそとさひりみ権塩沢 佳朝

十

茅れそややまこやうりの昔道園 野麥

茶中干はちのり糸や枇杷の糸六町 慮呂

駕御井乃いそめを借る長岡 暁雪

そまきりりのまらやとら塩沢 牧之

好金とらふ浪家りちて親小千谷 玉芝

海くまりもすれひくも栗竹ノ又 野草

稲妻やまゆりある根塩沢 北川

色白や石をたきり下条 其雲

生筒ふ二つ武忍 宗善



若く代や細うつらふは保氏雲上列伊勢河 麥雨

花信一毎電文在撰

山く乃膝をよおおもりのし言町 松居

あけし月よりくを時雨部出中時 里仙

涼しやこゝろをちり山のきりり目表田 藤丸

樹ももろろ人のもろもろの雨小千石 旭宇

秋風ちり風の夜を中のみ上伊豆 鯉思

午阿のりや唯一蓮乃る花の上仙田 二川

狼の吼枯ししをせまふ上列山口 旬竹

寂しきふもさあえあき世目表田 里竹

徒り骨を肥ししを電柏崎 号洋

浪さし人のあまろり秋の昏長岡 押夕

ねてきぬまやきりり少雨の海 里竹

大和路やまは中ふるをあえ言町 如夢

星人合やあまろり晴しき秋の気さ令 麥路

山くろりまふの眠る柳き山武州葦 兼佳

まはるやほろりまふり少商人 麥路

朝柳ハ 柳ハ 垣ハ 山ハ 杜園

るれ子よ時多し秋の夜や先 柙夕

夕暮や花もさる雪も下りけり古町 霞雪

雪も下りけり長岡 太傳

山伏乃衣ハ赤塩原 暮の秋 牧之

鳥也古町 尚古

大もれぬ信別七郎 鳥凌

振嘆世や暑かしの空伊勢平治 漱石

雪のくけり松尾 人の通らぬ 杉左

鳥塩原 茂兮

六評通点之部

浪のくけり竹文 秋月 如竹

雪も下りけり古村 古村

雪も下りけり野草 野草

葉のむや千手 一步

みけや拍崎 虎雄

吹ふら上野田 葉引

又とあまうりうりうり秋の心可那 目赤田 里竹

陽下りく山暮の田の面月の霞 志忍 花曉

門へお終ひ月の入るや少お徳 塩沢 佳朝

故郷へくふ陽家おと影舞 小千谷 玉芝

雨をよみしきましくいむ樽 如竹

空鳥やい埃乃もき中 是附 湖月

三日月お漂ふ風の落し乳 塩沢 北竹

鴨さくさぬのさく動く夕ア那 志忍 巽山

涼しきや竹の中お水乃さ音 塩沢 志好

名月やおうりあましくおもわり 中條 龜舟

世を捨てしあまの月もえさお 長岡 文正

やうさしきやあまの月の影 里竹

小田の月さく終りお味お 目赤田 芦月

あーくお給りあまの影 志忍 月樵

赤木の香やお終りあまの影 上河原 一畦

五月お終りお終りあまの影 塩沢 可榮

あまの影とお終りあまの影 園 野麥

既へり秋さくさくさく 官村 洞曉

けりや水まゝにゆるまのり人 塩次 茂字  
 牛橋て高きけりいと閑あふ 合 牧水  
 新ひも月ハ尾をふゆりま 出中吟 百亀  
 雨の蝶垣越すくの力う那 塩次 牧之  
 亦鳴く岸よ時もく一人 上列八吟 素衣  
 清くあふも美しきたもまら那 志好  
 柳のまふれはて沸き日わら 可榮  
 多柳の落りく知りけり 見附 其流

七評通鳥之部

葉巾干は初の日影や枇杷のむ 古所 慮呂  
 意角くくもまらり 古所 柳の雨 野草  
 涼くさや灯火くく水の人 牧之

八評之部

雪のまら白くく人の通く 古所 杉石  
 白くあけおのれ務く 小出吟 素良  
 沸くくくく 古所 柳のむ 里竹

九評く部

佛塩次この和ふ科の堂可塩次青字

此樂あつちあきあつち

君う代は鑑察そ科の妻松島重鳥明

夏霧のむくささかろ燕八平坊

雪や海石ふふ万ぬ柿のつま義仲重厚

清くや雪の心あは馬千三番杜春

時さうとく通おのころふ入梅日危坡仄

まけり乃えや四方不二番房の如祥桃居

神は海ゆらやおめろ一三番夜病のむ大左

ふの海まとほま載す

山茶花のりわや山芭蕉のあつ蒼虬

ほくく春秋と安人其壺こめか邦子ん専る和

り神や邦子おも専らり和ぬ和ゆ和け和る和

清石

家

Handwritten cursive text in multiple columns, including characters like 家, 命, 子, 女, 孫, 子, 孫, 子, 孫.

蕉

蕉門書林

皇都寺町通二條  
橘屋治兵衛梓

